研 究 者：浅野　一磨（所属：東京歯科大学 国際医療研究会）

研究題目：モンゴル国における歯科保健医療活動

目　的：

学生が主体となって企画・運営をすることにより，国際協力への積極的な参加を可能にする。また幅広い学年の学生が参加するため，歯学部生として早い段階から国際協力について興味関心を持つ契機となり，将来国際協力に携わることを志す人材を育成することを可能にする。以上をふまえ，主にアジア各国の口腔保健政策を現地大学や保健所等で学び，口腔保健活動を実際に体験することで，口腔保健分野からの国際協力を考え，実行することを目的とする。

対象および方法：

事業概要：

東京歯科大学の学部学生５名が，モンゴル国の首都ウランバートルにおいて，２大学と，専門や規模の異なる４か所のクリニックを訪問した。また，高等学校と幼稚園を訪問し，現地の学生や園児に対して歯科指導を行った。さらに，第15次台湾スタディツアーから開始した「歯科に対する意識調査」と題したアンケートを現地の高校生，歯学部生を対象に行い，またデータの比較検討のために日本の大学生，高校生に対しても同様の調査を実施した。

期　　間：2015年８月17日（月）～８月24日（月）
訪 問 国：モンゴル国
訪 問 先：国立大学 Mongolian National University of Medical Sciences（以下 MNUMS），
私立大学 Ach Medical University，Tsoglog Jaaluud 幼稚園，新モンゴル高校，
Ikh Zaihan Dental Hospital，Naradent Dental Hospital，FAMILY Dental Clinic，
NEI Dental, Facial&Cosmetic Clinic
参加学生：浅野 一磨，坂東 美保，池田 彩音，伊東 紘世，松浦 葵
引率教員：眞木　吉信（東京歯科大学 国際医療研究会部長）
主　　催：東京歯科大学 国際医療研究会
支　　援：公益財団法人 富徳会
公益財団法人　ライオン歯科衛生研究所
お世話になった方々：Amarsaikhan 教 授（MNUMS），Temujin さ ん（FAMILY Dental Clinic），
Tunga 先生（東京歯科大学），Erdene さん

結果および考察：

＜見学＞

８月18日（火）に MNUMS および附属病院とクリニック３か所を訪問した。市内中心部に存在する Ikh Zaihan Dental Hospital は，地上３階，地下１階からなるクリニックであり，技工士

が3人常駐していることが規模の大きさを思わせる。その次に訪問したNaradent Dental Hospitalはアパートの1階部分を改装した比較的規模の小さなクリニックで，小児歯科専門であった。その後訪れたNEI Dental, Facial&Cosmetic Clinicは審美歯科に重きを置いているということもあり，全てのチェアーが個室になっているほどプライバシーに配慮したつくりとなっていた。また待ち時間に子どもが退屈しないような遊戯スペースも設置されており，先進国と同様の配慮が見られた。さらにこのクリニックではFacebookなどの媒体を用いた広告・情報発信にも力を入れているとのことだった。ただ一つ，インプラントはモンゴル国でも最近話題になっているということだったが，このクリニックのインプラント処置室は非常に簡素なつくりで，感染対策に十分な設備が整っているとは言えない点が残念であった。規模の異なる計4つのクリニックを訪問することにより，低学年の参加者もただ漠然と見学を行うだけでなく，比較検討をすることが容易であった。

MNUMSでは，Amarsaikhan教授から大学および附属病院の説明を受けた。医療用機器は日本や韓国製のものが多かった。附属病院ができたのは最近のようで，それまでの学生は十分な臨床実習ができなかったようである。また，モンゴルには日本のような明確な保険制度が存在せず，大学病院において無料で治療を受けることのできる国の保険制度を利用すると，患者に対して粗悪で安価な材料を使用せざるを得ない状況にあることも学んだ。

8月20日（木）にはFAMILY Dental Clinicの訪問，高校および幼稚園での歯科指導を行った。新モンゴル高校はモンゴルにある日本語学校である。今回は48名の高校1,2年生に対して歯科保健指導を行った。まず初めに，普段どのように磨いているかを学生に模型でやってもらったところ，ブラッシングの基本的な知識に関しては高校生も有しているように思われた。その一方で，洗口剤やデンタルフロスの使用率は0%であった。実際に現地のスーパーに行ってみると，売り場は狭いもののそれらの製品は販売されていたため，売られていないから使用していないのではなく，それらの使用により得られる効果に関して無知なだけかもしれない。高校生から挙げられた疑問として，「キスで虫歯になることはあるか」や「唾液の役割はなにか」などがあり，非常にレベルの高いものだと感心した。また，Tsoglog Jaaluud幼稚園において，お菓子を食べた後に歯を磨かないとどうなるかを紙芝居形式で実演した。歯を磨くことの大切さを少しでもわかってもらえたらと願っている。

8月21日（金）に訪問したAch Medical Universityでは，Battulga学校長に学内を案内して頂いた。敷地内にいる犬の歯が実習に用いられていることを知ったときは驚いた。

新モンゴル高校にて高校生と

Tsoglog Jaaluud幼稚園にて

＜アンケートの実施＞

方法：2015 年 3 月，台湾で歯学部の学生 102 名と非歯学部の学生 105 名の計 207 名に，日常的な口腔ケアや用語の知識についての設問形式のアンケートを行ったことをふまえ，今回（2015 年 8 月）モンゴルの歯学部学生 206 名と高校生 48 名に対し同様の調査を実施した。さらに，比較検討のため，日本の歯学部学生 96 名と高校生 184 名に対しても調査を行った。なお，言語はモンゴルにおいてはモンゴル語，日本では日本語を用い，A4 の用紙を配布して直接書き込む形式とした。設問では，歯磨きの際の歯磨剤使用の有無や，歯科に関連する用語についてどの程度知っているかなど，計 17 項目を尋ねた。用語に関しては，デンタルフロス，キシリトール，歯周病，歯周ポケット，歯石，歯垢，シーラント，6 歳臼歯，フッ化物，口臭の 10 個に関して，（A）説明できるほどよく知っている，（B）聞いたことがある，（C）知らない，の 3 段階評価をしてもらった。なお，一部の設問は台湾での調査時から変更している。

結果と考察：

デンタルフロスに関して，モンゴルの高校生で「知らない」を選択した者は 0%であり，特に「説明できるほどよく知っている」を選択した者は 50%であった。その一方で，実際にモンゴルの高校生でデンタルフロスを使用していると答えた者は皆無であった。参考までに，日本の高校生のデンタルフロスの使用率は 16.3%である。また，モンゴルの歯学部学生では，96.5%がデンタルフロスに関し「説明できるほどよく知っている」または「聞いたことがある」と答えたのに対し，実際に使用しているのはわずか 1.9%しかいなかった。この項目に関して台湾では 47.8%の歯学部学生がデンタルフロスを使用しているという結果があるため，現段階ではモンゴルにおけるデンタルフロスの使用率が低いことがわかる。実際にモンゴルのスーパーに行くと，日本と同様，デンタルフロスや洗口液の占める売り場面積の割合は非常に狭かった。まだまだ普及までに時間がかかるのかもしれない。

また，フッ化物に関する知識を尋ねたところ，「説明できるほどよく知っている」と答えたモンゴルの歯学部学生は 79.5%であったのに対し，日本の歯学部学生はわずか 53.5%にとどまった。高校生に同じことを問うと，「説明できるほどよく知っている」と答えたモンゴルの高校生は 71.5%であるのに対し，日本の高校生は 0%であった。この結果から，歯学部の学生は講義でフッ化物塗布を学習しているため，得られた割合のデータはある程度信頼できるものであると考

Ach Medical Unibersity にて

MNUMS にて

えられるが，高校生のなかには化学で学習するフッ素あるいはフッ化物と混同している者がいることも否定できないように考えられる。この設問に関しては，次年度以降にこの調査を実施するうえで，問い方を工夫し信頼に値するデータを得られるよう努めなければならないと感じた点であった。

その他，各国間で差は見られなかったが，1日の歯磨きの回数としては2回が最多で，また歯磨剤を使用する人の割合もほぼ100％という結果になった。なお，上記の項目以外の分析に関しては，詳細な考察を本学国際医療研究会の事業報告書にまとめることとする。

成果発表の予定：

2015年10月　展示・発表　東歯祭（東京歯科大学文化祭）にて
2016年　5月　報告書　第16次海外スタディツアー事業報告書発行
　　7月　口頭発表　第27回歯科保健医療国際協力協議会（JAICOH）にて